

経営比較分析表（令和4年度決算）

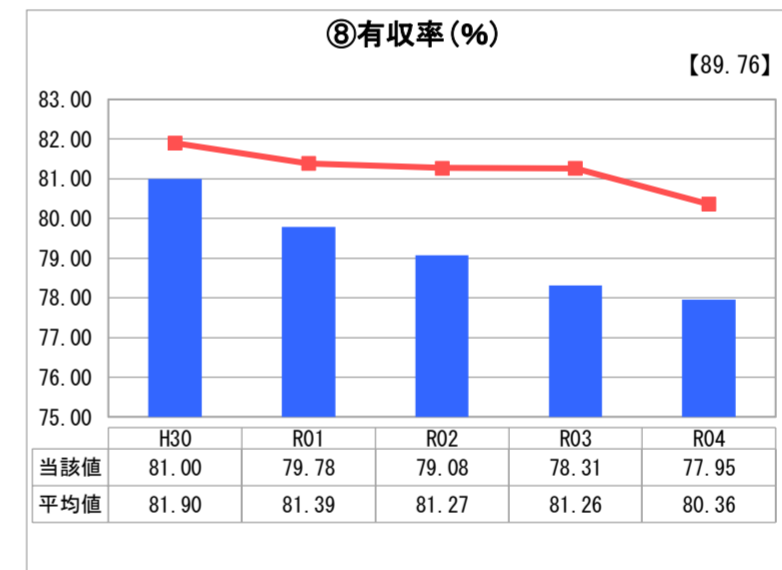
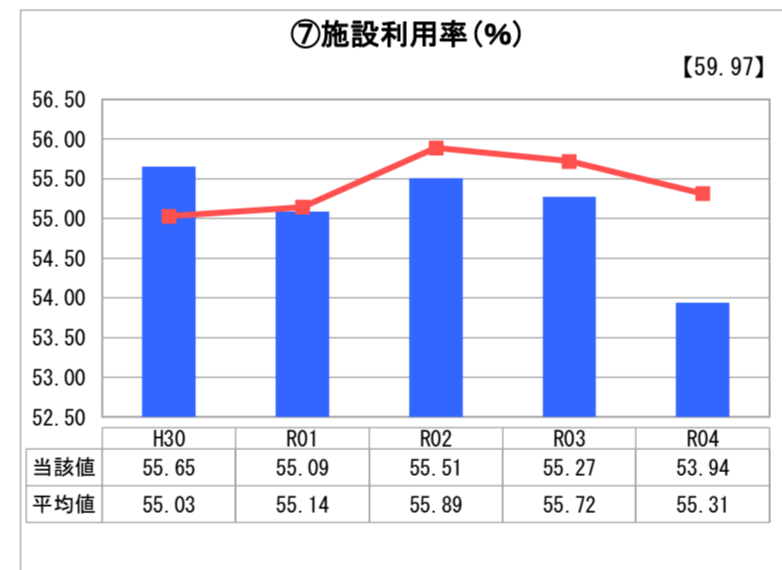
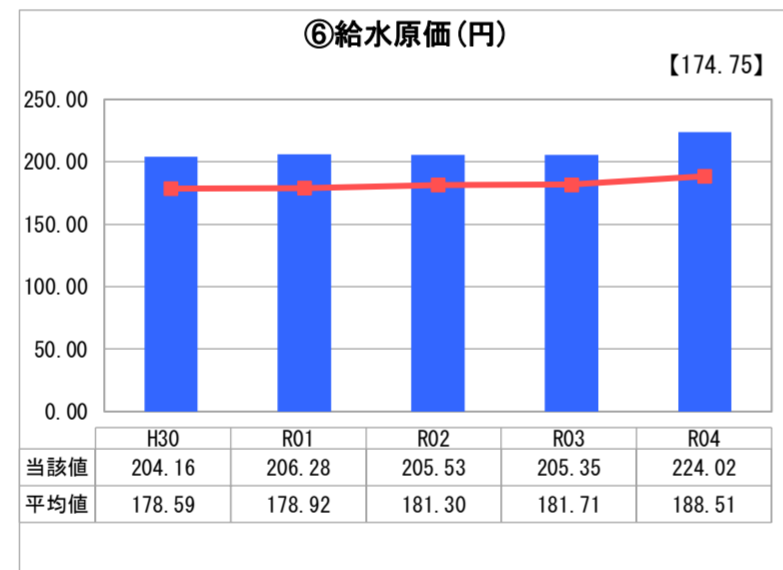
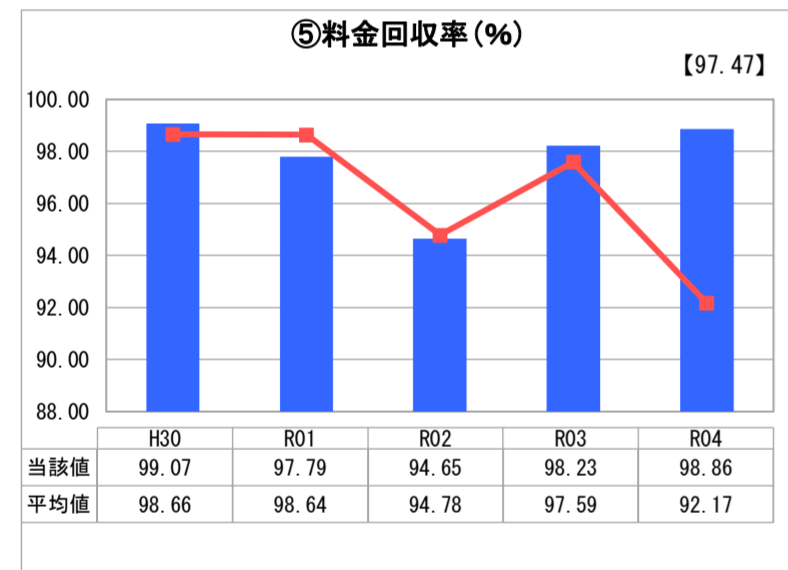
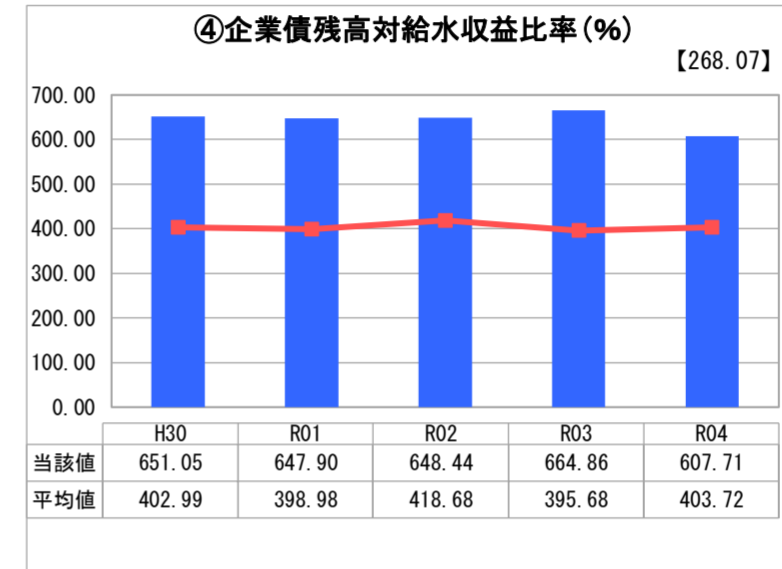
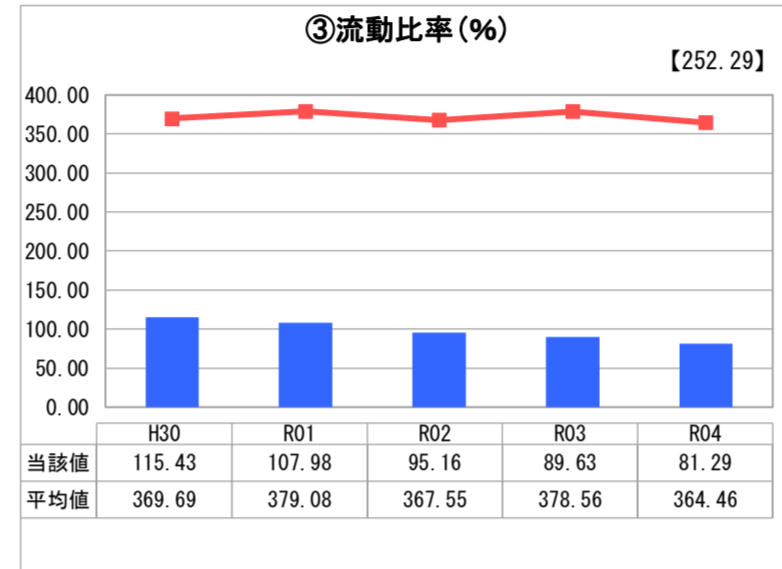
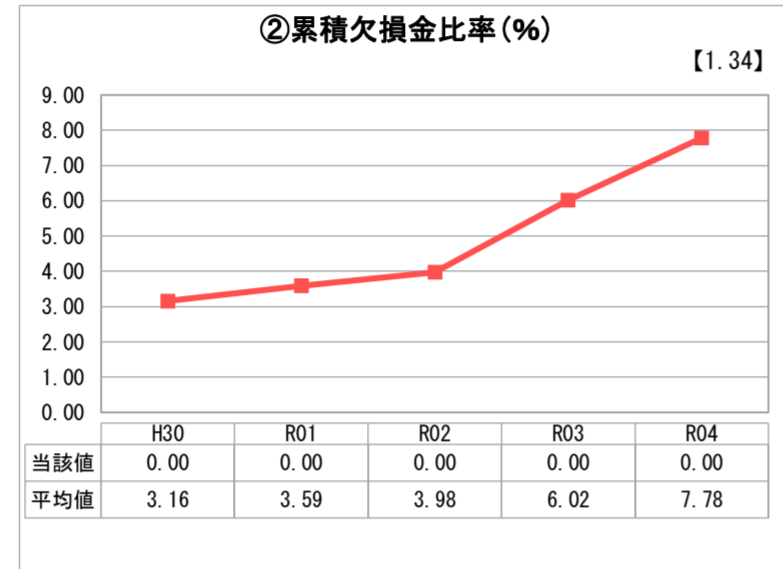
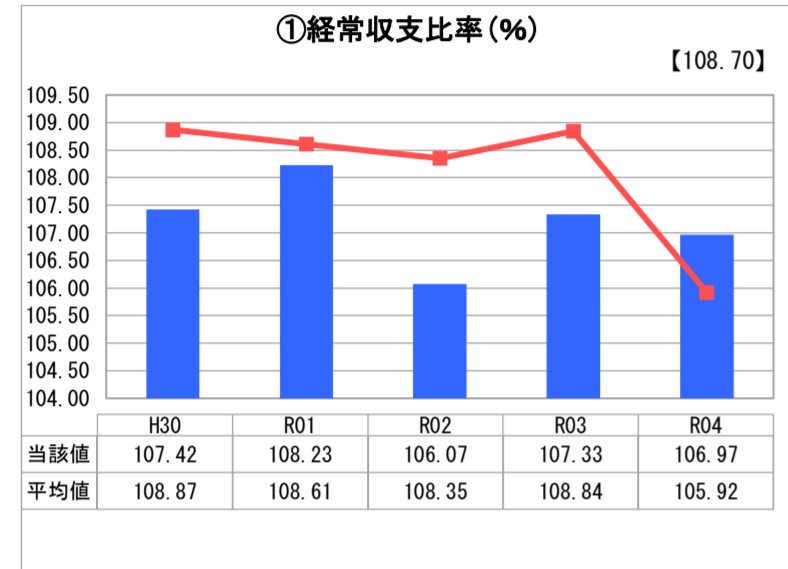
北海道 留萌市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	44.97	98.84	4,647	

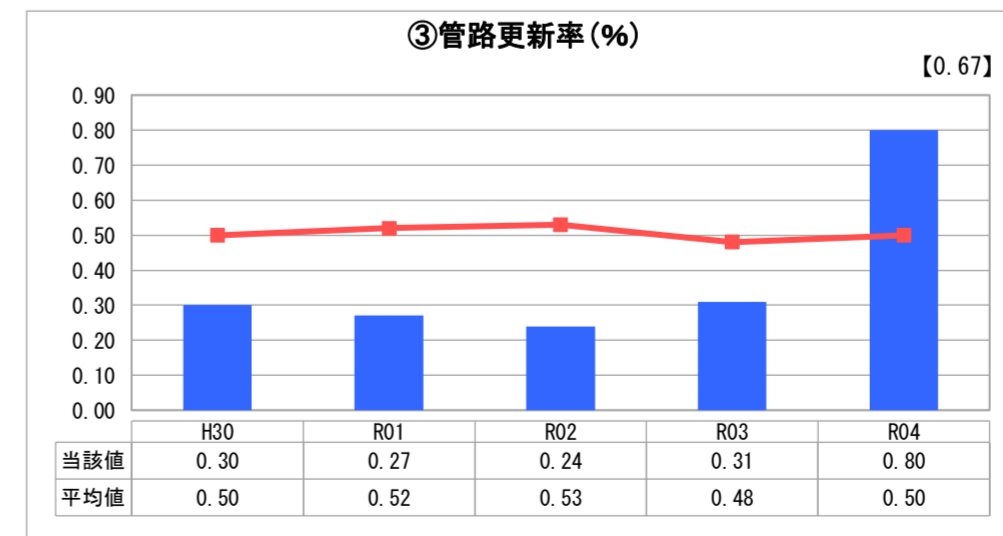
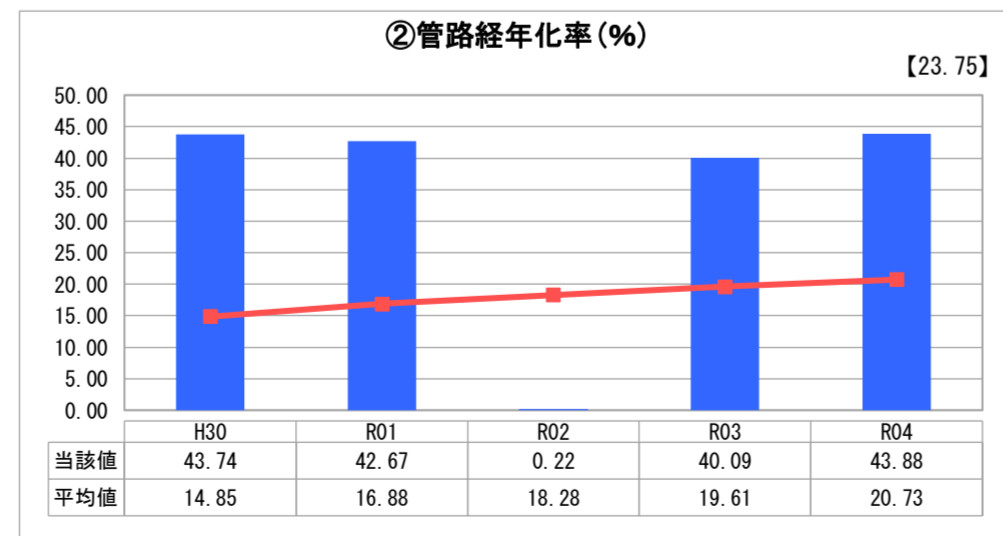
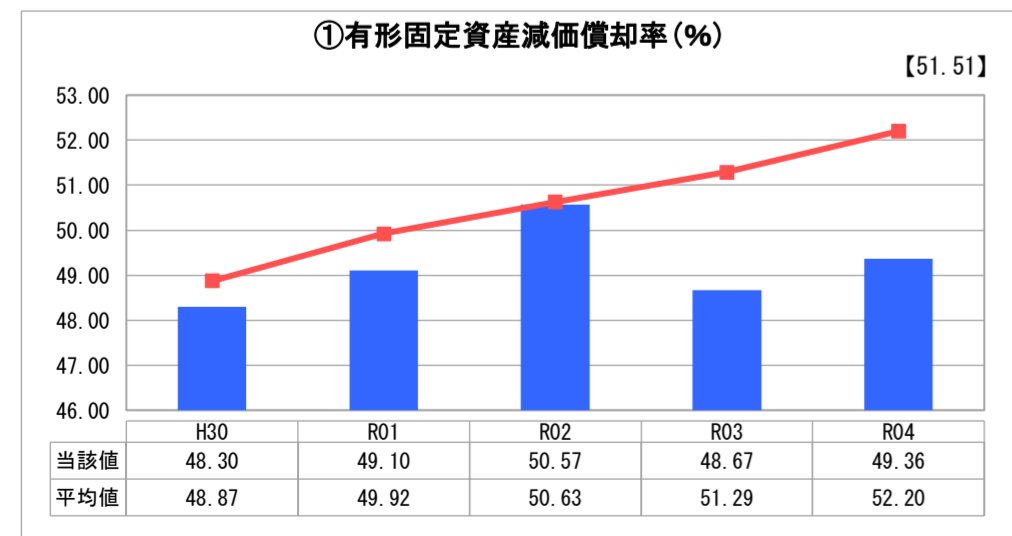
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,234	297.81	64.58
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,762	17.98	1,043.49

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体と同水準で100%を超えており、累積欠損金はない状態を保っている。流動比率は類似団体に比べ低く比率も100%を下回っているが、建設改良費等に充てられた企業債によるものであり、経営の健全性は維持されている。企業債残高対給水収益比率は類似団体に比べ高いが、投資事業の大半を企業債で賄っているためであり、今後も企業債の借入れは必要となるが、経営戦略に基づく計画的な投資を行い、起債残高を減少させたい。料金回収率は類似団体より高い水準ではあるが、100%に達していない状況である。ただし、一般会計繰入金を充てる事業に係る経費負担分を経常費用から除くと料金回収率は100%を超えており、令和4年度の料金改定が経営の安定化につながっている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々増加傾向にあり、老朽化が著しい状態であり、有収率にも影響が及んでいる。令和6年度に浄水場施設の更新や道道改良事業に伴う管路移設工事が完了することから、令和7年度から市内管路の更新に着手し、状況の改善を目指す。

全体総括

現在、収益的収支は黒字を維持しているが、人口減少による料金収入の減少は続いており、令和4年度には料金改定を行った。しかし、投資額の増加により資本的収支不足額も大きくなり、運転資金も年々減少している。今後も経費削減等の経営努力を進め、平成30年度に策定した経営戦略やアセットマネジメントに基づき、計画的な施設更新を進めていく。

2. ②管路経年化率
R02 47.00%（決算統計調査の数値無記入による）